

# 青山小だより

平成30年 1月9日  
港区立青山小学校 NO.9  
校長 下城 英和

## 一年の計は元旦にあり

校長 下城英和

保護者の皆様、地域の皆様、新年あけましておめでとうございます。

年末から寒さもひとしおでありましたが、比較的温かめな元旦でした。それでも、やはり空気は冷たく、空を見上げると雲一つない青空が広がっていました。一年の始まり、今年目標を立てるには、身の引き締まるような、この寒さがぴったりでした。子供たちはどのような目標を立て、どのような一年にしようと考えたでしょうか。

私たちの住む地球は太陽の周りを約三六五・二四二二日かけて公転しているといわれ、時の流れの区切りがどこにあるというものではありません。しかし、人類はめぐり来る季節をもとに、工夫して農作物の耕作のために暦というものを作りました。そして、この暦もいくつかの変遷を経て今日のような暦となり、私たちの生活に密着してきています。一月一日を年の始めとしていますが、これは、めぐる時の流れに区切りをつけて、心を新たにして生活を築いていく知恵といえると思います。新しい年の区切りを、「今年も去年と同じ、ただ一つ歳をとっただけ」と受けとめることもできますし、新しい年が来たから嬉しい、よい年にしたいと前向きに捉えることもできます。子供たちにはぜひ後者のような心構えをもってほしいと思います。

新しい年を迎えると、人間は何らかの期待と夢をもつものです。「棒ほどに願って、針ほどかなう」といわれますが、夢は大きいほどよく、その願いの実現に向けて努力し続ける態度を保つことが何よりも大切です。今年初めのテレビ番組の箱根駅伝大会で青山学院大学が史上6校目の四連覇を成し遂げました。その後、選手の皆さんはインタビューを受けて、今回の総合優勝の喜びだけではなく、自分の走りを振り返り、次の年に向けて自分はどのように練習に取り組み、どうしていくのか明確な目標を話していたことはとても印象的でした。あらためて一人一人の選手が、きちんとした目標をもち、その実現に向けて取り組む力が身に付けられていることを強く感じさせられました。

自分の目標を現実のものとするためには、何が必要であるのかと考えれば、やはり基本を忠実にマスターすることだと思います。スポーツでも芸術でも科学でも、何の分野でも基本を習得することから出発します。これをおろそかにすると上達も遅いし、上達の伸びに限界が出てしまいます。「一年の計は元旦にあり」と申します。今年も子供たちが希望に向かって、明るく意欲的に前進できるよう教職員一同、「新たな気持ちで、基本を忠実に」で努力していきたいと思います。

保護者、地域の皆様には本年も本校の教育活動にご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。